

主題	音楽療法を用いて利用者の残存機能を高め、サービス向上を目指す
副題	職員の関わり方により利用者の能力を引き出そう

音楽療法	残存機能
------	------

研究期間	12ヶ月	事業所	昭島市高齢者在宅サービスセンター愛全園
------	------	-----	---------------------

発表者：田口 勢子（たぐち せいこ）	アドバイザー：加藤 博臣（かとう ひろおみ）
--------------------	------------------------

共同研究者：酒井 明日美（さかい あすみ）

電話	042-545-8011	メール	center@doho-gojoyokai.com
FAX	042-545-8012	URL	http://doho-gojoyokai.com/

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人同胞互助会を母体とする特別養護老人ホーム愛全園に併設されているデイサービスです。医療、栄養、機能訓練が充実しており、広い敷地が特徴です。また多種多様なクラブ活動も人気があります。定員は通所デイ（予防、一般）25名（土曜のみ12名）、地域密着型デイ（認知）36名（土曜のみ24名）です。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

予防重視型へとサービス内容が変更になったものの、もっとレクリエーションを楽しみたいと言った声が多く聞かれるようになった。また音楽を望む声も多かった為、音楽を用いてリハビリテーションを図る事を検討し、赤星式音楽療法をデイサービスでも取り入れることとなった。これは外部講師を招いて専門的に能動的集団音楽療法を実施するものであるが、すでに併設の特別養護老人ホームで行われている音楽療法であるため、デイサービスへの導入もスムーズに行くと考えていた。しかし次のような課題がみえてきた。

- ・利用者の運動量が多く疲れすぎてしまう。
- ・プログラムの内容が時間配分含め不適切である。
- ・職員の関わり方が重要であるが、活動への理解が全職員に浸透していない。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

＜目標＞

利用者の能力を引き出し、サービスの質の向上を目指す。

＜期待する成果＞

職員の働きかけが効果的に出来るよう変化させる事。

利用者が楽しく自発的に音楽療法に参加する事。

を期待する。

《3. 具体的な取り組みの内容》

利用者の様子を観察し、利用者の運動量が多いのではと感じた。これは外部講師の進行に問題があったと思われた。外部講師に対して失礼な事は言えない雰囲気もあったが、職員と外部講師との話し合いの場を設け、ミーティングを重ねていった。それにより適した内容になっていった。

次に、プログラムの内容が時間配分含め不適切ではないかといった問題点が見えてきた為、同様に外部講師との話し合いにより、プログラムの計画や進行は安定していった。一見して安定した音楽療法に見えたが、職員一人一人の動きがバラバラであり、職員が利用者に十分関わっていない、利用者の能力を十分引き出せていないと外部講師より指摘があった。そのことをきっかけに職員全員で話し合い音楽療法自体を正しく理解していない現状が浮き彫りとなった。

そこで次の対応を行っていった。

- ・音楽療法担当職員が中心となり、職員へ音楽療法の役割を理解してもらう勉強会を開催。
- ・外部講師と職員の役割を明確にするための話し合いを実施。職員は残存能力を引き出すことに専念。
- ・特定の利用者を決め、その利用者にとどのような変化が見られたか変化を見る。
- ・研究前と後で職員にとどのような変化があったか聞きとりを実施。
- ・観察対象の利用者については、自宅に帰ってから変化が感じられたか聞きとりを行った。

《4. 取り組みの結果と考察》

音楽療法を職員が正しく理解する事や役割を明確化することで職員の動きに変化が見られた。また利用者の効果を常に予測しながら対応する事ができるように変化していった。効果を確認できた利用者について述べる。

・難聴の利用者T様

歌が好きな方であるが、かなりの難聴のため当初は音楽療法についていけなかった。座席の配慮など検討し、視覚を用いてリズムを取ったり、職員の関わりを多くしたことで意欲の向上がみられるようになった。

《5. まとめ、結論》

職員への勉強会により、音楽療法の役割を理解できたことで、利用者への働きかけも変わってきた。やはり効果を出すには職員の働きかけが非常に重要であることを理解した。

今回は音楽療法についての研究であったが、ここでの取り組みは普段の業務でも活かされる内容であると思われる。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 提案と発信》

利用者を楽しんでほしい。それは職員共通の気持ちではあるが、ただ楽しいだけでなくそこに在宅生活の継続が出来るために私達はどう関わっていけばいいのか。この事を常に意識しながら関わっていくことが大切だと思う。

【メモ欄】